

【EB】教育原理		幼児教育学科		1年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	矢田貝 真一					
資格・制限等	幼免・保資必修					
実務家教員	中学校教諭・20年					
授業内容	わが国の現在の教育は多くの課題を抱え、その解決が求められています。課題の解決や教育・保育の実践には、「教育とは何か」という問いに対する知識や理解にもとづく自分なりの確かな考え方を持つことが重要となります。授業では、教育についての基本的な概念とともに、教育の目的・内容・方法・行政も含む制度などの基礎的事項を確実に理解し、教育の思想や歴史の基礎的内容も把握して、「教育とは何か」を考え、教育課題についても考えられるようになることをめざして学びます。					
授業方法	講義を中心としますが、グループでの討議や発表も取り入れながら進めます。知識を身につけるだけでなく、教育や保育に対する自分なりのとらえ方や考え方の形成をめざして展開していきます。					
到達目標	知識・理解	教育に関する基本概念・理念・歴史や思想、それらの変遷、現代の制度、基準と教育課程、カリキュラム・マネジメントなどの基礎的な知識を身につけることで、教育の目的・内容・方法・行政を含む制度・思想・歴史などの基礎的事項を理解することができる。	◎			
	思考・判断・表現	教育に関する知識と理解を活用して、教育をめぐる諸課題をあげ、その解決について考えられるとともに、「教育とは何か」という基本的な問いに自分なりに答えることができる。	○			
	技能	教育に関する基本的な知識や理解と結びつけながら、保育者に必要な指導や支援の技能について考えることができる。	△			
	関心・意欲・態度	教育・保育に興味や関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。	○			
	備考	◎・○・△の記号は、幼児教育学科のDP及び到達指標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	50	10	-	-	60
	レポート・発表	10	5	-	5	20
	自己評価	-	-	5	5	10
	受講態度	-	5	-	5	10
	合計(点)	60	20	5	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えません。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。『小学校学習指導要領』文部科学省、平成29年。菱田隆昭 編『幼児教育の原理 [2版]』みらい、2009。山口意友『教育の原理とは何か[改訂版] 日本の教育理念を問う』ナカニシヤ出版、2017。他に必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス (この授業での学ぶ目標や内容、学び方や学ぶ心構えなどについて理解する) [課題・準備] 免許・資格と結びつけながら、この授業で学ぶ内容を調べてまとめる(3~5h)					
2	教育とは何か (教育と環境の関係、学校教育・社会教育・家庭教育などについて知識を深め、教育というものについて考える) [課題・準備] 「教育」がどのようなものかとらえられているのかを調べてまとめる(2~4h)					
3	教育の本質と要素 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、ヒトに教育がなぜ必要か、教育の本質、教育の要素と相互関係などについて知識を得て理解を深める) [課題・準備] 教育基本法での「教育の目的」と学校教育法での「幼稚園教育の目的」を調べてまとめる(3~5h)					
4	教育の目的や目標 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、教育基本法の理念、わが国の学校教育の目的と構造、幼児教育の目的と目標について理解を深める) [課題・準備] わが国の現在の学校教育制度について調べ、そのかかえる課題もあわせてまとめる(3~5h)					
5	わが国の教育制度 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、公教育の考え方、教育法規・教育制度の変遷としくみ、教育制度を支える教育行政について理解を深める) [課題・準備] 教育制度をめぐる課題をひとつ取り上げてまとめ、自分の考えや意見をのべる(2~4h)					
6	諸外国の教育制度 (制度やしくみのちがいが、考え方の相違点と共通点について知識を得て理解を深め、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、教育制度をめぐる課題について考える) [課題・準備] これまでの学びや経験から、教育(保育)者に何が求められていると考えるかをまとめる(3~5h)					
7	教育者に必要なもの (教員養成の変遷について知識を得て理解し、調べてきた課題も活用しながら、教育する者に必要な資質と能力について理解を深める) [課題・準備] 前半の学修内容を振り返ってまとめる(4~6h)					
8	中間のまとめ (授業外の課題でこれまで調べてきたことも活用しながら、第1回~第7回に学んだ内容を復習する) [課題・準備] 教育に関する思想(コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ、カントなどの教育のとらえ方)について調べてまとめる(4~6h)					
9	教育の歴史と思想(1) (諸外国の教育観や子供観の変化・教育の歴史・近代教育制度の成立と展開・教育に関する思想について知識を深め、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら理解を深める) [課題・準備] 学んだ教育観を参考に、最もふさわしい教育者のあり方について考えてまとめる(3~5h)					
10	教育の歴史と思想(2) (わが国の子供観や社会観・近代教育制度の成立と展開・教育に関する思想について知識を深め、これまで授業外の課題で調べてきたことも活用しながら教育課題について考える) [課題・準備] 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」のこれまでの変遷をまとめる・平成29年改訂の主な趣旨を調べてまとめる(3~5h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
11	教育や保育の基準（教育要領や学習指導要領等の性格と位置づけを理解し、授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、過去の改訂の変遷や改訂主旨と背景について理解を深める） [課題・準備] 「教育課程」の意味について調べてまとめる(3～5h)
12	教育課程と指導計画（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、教育課程の役割や原理と編成の方法などについて、基本的な知識を得て理解を深める） [課題・準備] 「カリキュラム・マネジメント」について用語の意味を調べてまとめる(3～5h)
13	カリキュラム・マネジメントと評価（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、カリキュラム・マネジメントや評価などについて理解を深め、保育における事例について考える） [課題・準備] 「教育とは何か」という問いへの考えをまとめ、わが国の教育の特長や課題も調べてまとめる(4～6h)
14	わが国の教育の特長や課題を考える（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、具体的な特長や課題について考えてグループで話し合ってみて、発表できるよう準備する） [課題・準備] 教育に対する自分の考えと、教育の特長や課題に関するレポートを発表できるように準備する(3～5h)
15	教育の特長や課題についての発表と全体のまとめ（授業外の課題で調べてきた内容も活用しながら、これまで授業で学んだことをもとに、わが国の教育の特長や課題についてまとめ、その概要を発表し、これからの幼児教育と保育のあり方についても考える） [課題・準備] 配付資料に基づいて全体を復習する(4～6h)
時間外での学修	[課題・準備]は、授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので、()の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。
受講学生へのメッセージ	授業では調べてレポートなどにまとめ、それを発表する活動もあるので、資料活用・表現などの力も身につけるよう努力しましょう。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16:00から17:00です。質問等があれば、どうぞ。

【EB】社会福祉		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	堀江 法夫						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員							
授業内容	少子高齢化の社会にあって社会福祉は全ての人にとって大切なテーマです。限られたマンパワーや財源という社会資源の中で高齢者や子どもたちの命がまもられていくにはどうしたらいいのか。社会福祉のこれまでと現在の課題を学んでいきます。						
授業方法	講義を中心として基礎的知識を学び、その上で出来る限りみなで考えを深めていきます。						
到達目標	知識・理解	社会福祉の歴史と実践について基本的な知識と理解を深める。			◎		
	思考・判断・表現	社会が激変していく中で生活のしづらさを思考、判断、表現できる。			○		
	技能	福祉の実践の場でアプローチしていく専門的な技能を深める。			○		
	関心・意欲・態度	共通の福祉課題に積極的に関心を持ち取り組むことができるようになる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	5	10	20
	自己評価		5	-	-	5	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		35	15	25	25	100
評価の特記事項	方法:筆記試験(1回)・レポート発表(1回)・自己評価(毎回)						
テキスト							
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	社会福祉を学ぶにあたって：これまでの社会の変遷と現代の生活課題について考えよう。 〔課題・準備〕社会福祉は私たちの生活の中でどのような関係があるのかを考えておこう。(3h)						
2	社会福祉の考え方と役割：保育を含む社会福祉の視点と目的を考えよう。 〔課題・準備〕社会福祉の考えはどのようにして生まれてきたのかを考えておこう。(3h)						
3	社会福祉の歴史：欧米と日本の福祉についてこれまでのあゆみを理解しておこう。 〔課題・準備〕特に資本主義社会の発展との関係で考えておこう。(3~6h)						
4	社会保障とは何か：社会保険や生活保護について理解しておこう。 〔課題・準備〕社会保険の種類と生活保護の考えを調べておこう。(3h)						
5	社会福祉のしくみ：高齢者福祉と障害者福祉のしくみと法制度について理解しておこう。 〔課題・準備〕介護保険法と障害者総合福祉法について調べておこう。(3h)						
6	社会福祉の実施機関と行財政：福祉事務所と社会福祉法人について理解しておこう。 〔課題・準備〕児童相談所、福祉事務所、社会福祉協議会、社会福祉法人について調べておこう。(3h)						
7	社会福祉施設：社会福祉施設の種類や運営の基準について理解しておこう。 〔課題・準備〕社会福祉施設の種類や利用方法について調べておこう。(3h)						
8	子どもの福祉：子どもの人権と児童家庭福祉について考えよう。 〔課題・準備〕子供の福祉と向き合うにはどのような視点が必要か考えてみよう。(3h)						
9	社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性と倫理について考えよう。 〔課題・準備〕社会福祉の専門職としての資格はなぜ必要か考えてみよう。(3h)						
10	相談援助の意味と方法：ソーシャルワークの視点と展開過程について考えよう。 〔課題・準備〕保育士を含むソーシャルワークの実践について考えてみよう(3~6h)						
11	福祉サービスの利用支援：契約制度と適切な利用支援について理解しておこう。 〔課題・準備〕その人にマッチした支援とは何かを考えてみよう。(3h)						
12	権利擁護と苦情解決：権利擁護の意味と苦情解決のしくみについて理解しておこう。 〔課題・準備〕権利擁護と苦情解決はなぜ必要になってきたのかを考えてみよう。(3h)						
13	地域福祉の推進：地域福祉の理念と推進の方法について考えよう。 〔課題・準備〕地域福祉が必要になってきた過程について考えてみよう。(3h)						
14	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題・準備〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)						
15	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題・準備〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)						
時間外での学修	社会福祉の専門職は保育士や介護福祉士等があります。共通点と相違点を考えてみよう。						
受講学生へのメッセージ	子育て環境は変化し、専門職として社会福祉の基礎的理解が大切です。一緒に考えていきましょう。オフィスアワーは毎週火曜日、12:10から12:30です。						

【EB】子ども家庭福祉		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	松村 齋					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員	学校教員20年					
授業内容	今後、我が国は大規模な人口減少と超高齢社会となることが予想され、子ども達の生活も大きな転換期にきています。授業では、福祉職としての保育士が身につけたい、子どもを愛し、子どもを尊重し、子どもの権利を護ることの大切さを、児童家庭福祉の理念と概念を基本から学び、福祉現場で自分らしく実践するための基礎的な力を養います。					
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。					
到達目標	知識・理解	児童家庭福祉の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。	◎			
	思考・判断・表現	児童に関する具体的な事例を通じて、自分なりの保育者観を持って問題や課題に向き合うことができる。	○			
	技能	児童一人ひとりの考え方や学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。	◎			
	関心・意欲・態度	児童を取り巻く関係機関との連携のあり方を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。	○			
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	10	20	-	60
	発表・レポート	-	5	10	5	20
	自己評価	5	-	5	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。					
テキスト	授業時にプリント配布します。					
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 成清美治 吉弘淳一『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』学文社 吉田真理『児童家庭福祉』青踏社 他 その他、授業時に適宜紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
2	児童家庭福祉の理念と概念について 児童家庭福祉とは 児童の権利保障について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
3	児童・家庭の生活実態について 少子化問題の現状と課題 家庭における育児の現状と課題について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
4	児童家庭福祉と保育について 児童家庭福祉の一分野としての保育 児童の人権擁護について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
5	児童家庭福祉に関する法制度について 制度と法体系 行財政と実施機関 児童福祉施設等について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
6	児童家庭福祉制度の専門職の役割と実際(1) 保育士の役割 保育士とは 保育士の業務 保育士の課題について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
7	児童家庭福祉制度の専門職の役割と実際(2) 教師の役割について学ぶ(幼稚園教諭 小・中・高等学校の教諭 特別支援学校の教諭) 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
8	児童家庭福祉制度の専門職の役割と実際(3) 医師・保健師の役割について学ぶ(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 等) 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					
9	児童家庭福祉制度における連携と実際(1) 医療関係者との連携 労働機関との連携について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	<p>児童家庭福祉制度における連携と実際(2) 教育機関との連携について学ぶ(教員、特別支援教育コーディネーター等) 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)</p>
11	<p>児童相談所の役割と実際について 設立の意義・目的 組織体系 連携 活動の実際について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)</p>
12	<p>児童家庭福祉の現状と課題(1) 事例検討:少子化と子育て支援サービスにおける事例より考察する 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)</p>
13	<p>児童家庭福祉の現状と課題(2) 事例検討:保健所と保健センターにおける事例より考察する 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)</p>
14	<p>児童家庭福祉の現状と課題(3) 事例検討:児童虐待防止と社会的養護の動向における事例より考察する 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)</p>
15	<p>特別な支援が必要な児童への対応について 事例検討:発達障がいを持つ子どもたちにおける事例より考察する 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2~4h)</p>
時間外での学修	<p>児童家庭福祉、児童虐待、障がい児(者)施設、特別支援教育に関わる当事者の手記を最低一冊は読んでおいてください。そこから、自らの体験を通じて感じ取ることも大切な学習のひとつです。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>児童家庭福祉の問題は私たちの身近なところで起っています。未来の保育者として、常に日々の出来事や感じたことを相手の立場で考えられる習慣を身につけましょう。 オフィスアワーは、H号館H207号室 木曜日16時10分からです。</p>

【EB】保育原理		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	名和 孝浩					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員	保育所保育士（9年）					
授業内容	国が「保育」や「保育所」をどのように定め、何を求めているのかを学び、保育者が自信をもって実践に取り組むため、子どもの権利を明らかにして保育の本質を学ぶ。					
授業方法	講義形式で保育の本質に関して学びを深める。またグループワークやディスカッションを通して、自分の意見を深めつつ、他者の様々な視点から学びを深める。					
到達目標	知識・理解	保育の意義とその内容についての基礎理論を理解する。			◎	
	思考・判断・表現	幼児教育の歴史的背景や現代の課題に気づき、判断することができる。			◎	
	技能	一人ひとりの子ども理解に応じた援助や環境構成ができる。			○	
	関心・意欲・態度	保育者として社会に貢献する意識を育てることができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	20	20	10	-	50
	受講態度	10	10	10	20	50
	合計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、グループワークの参加度、発表や提出物の状況などから総合的に評価します。					
テキスト						
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）』フレーベル館 『教育要領と保育指針 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）』フレーベル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション 〔準備・課題〕なぜ保育原理を学ぶのかを考える（2～4h）					
2	保育の理念と意義②課題の確認 〔準備・課題〕保育の社会的意義について調べる（2～4h）					
3	①保育の基盤としての子ども観と内容・方法②課題の確認 〔準備・課題〕子どもの人権と保育施設の役割について調べる（2～4h）					
4	①保育所保育指針・幼稚園教育要領などの考え方②課題の確認 〔準備・課題〕保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育・保育要領の内容をまとめる（2～4h）					
5	①福祉としての保育②課題の確認 〔準備・課題〕養護と教育の一体性について考える（2～4h）					
6	①保育者に求められる専門性②課題の確認 〔準備・課題〕子どもと共に生きるとは何か考える（2～4h）					
7	①未来へとつながる保育の目標②課題の確認 〔準備・課題〕保育課程とねらい・内容について調べる（2～4h）					
8	①遊びを通じた保育②課題の確認 〔準備・課題〕子どもにおける遊びの意義について考える（2～4h）					
9	①子どもと共にある保育の方法②課題の確認 〔準備・課題〕保育の方法における歴史の変遷について調べる（2～4h）					
10	①保育を取り巻く環境②課題の確認 〔準備・課題〕保育における環境とは何か調べる（2～4h）					
11	①保育におけるクラス運営②課題の確認 〔準備・課題〕各年齢の特徴や発達について調べる（2～4h）					
12	①家庭・地域・専門家との協働・連携②課題の確認 〔準備・課題〕自分が住んでいる地域の専門家との協働・連携の実態について調べる（2～4h）					
13	①保育の思想と歴史の変遷②課題の確認 〔準備・課題〕日本や諸外国の保育思想家や歴史の変遷について調べる（2～4h）					
14	①保育の現状と課題②課題の確認 〔準備・課題〕これからの日本の保育に求められるものは何か調べ、考察する（2～4h）					
15	総括 〔準備・課題〕学びを振り返り、あらためて保育の原理・原則について考える（2～4h）					
時間外での学修	保育を取り巻く制度や政治、時事問題などに関心を持ち、情報や資料を収集する。					
受講学生へのメッセージ	子ども・保育をめぐる諸問題を扱うため、日頃から最新の情報をキャッチできるように意識をしておいてください。「子どもについて知りたい」「子どものよりよい環境をつくりたい」「保育の歴史について知りたい」など、自分なりの興味・関心を深めていきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（名和研究室、金曜日12：00～13：00）を活用してください。					

【EB】 発達心理学		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	病院臨床心理士・6年、学生相談室臨床心理士・7年						
授業内容	生まれてから現在までの十数年間で、あなたの心と身体は様々な面で発達してきました。では、このあとはどうなるのでしょうか？「発達」というと赤ちゃんが大人になるまでの期間のみがクローズアップされがちですが、そのあとも人は死ぬまで発達します。この授業では、私たちの人生を「生涯発達心理学」の視点で捉えながら発達段階に沿って学びます。各時期の特徴や個性としての変化、他者や社会との関わりなど、心理的側面から理解していきます。これまでの人生を振り返り、これから先、人生の終わりが来るまでの人の発達を概観しておきましょう。						
授業方法	基本的には講義形式ですが、課題に取り組む、自分自身について振り返って記述する、グループワークに参加する、など能動的な学び（アクティブラーニング）を前提とした方法も取り入れて授業を行います。						
到達目標	知識・理解	全ての年齢の人を対象と捉え、その人の背景にある発達段階や発達課題に関する基礎的な知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	目の前の対象の行為や表出を相手の発達段階や理解度を考慮して多角的に分析し、判断して対応することができる。			◎		
	技能	対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。			○		
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自らの学びを深め、自己理解や他者理解に努める。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験(中間・最終)		30	10	-	-	40
	授業時間内課題		-	10	15	5	30
	授業時間外課題		-	5	-	5	10
	小レポート		5	5	-	-	10
受講態度		-	-	-	10	10	
合計(点)		35	30	15	20	100	
評価の特記事項	小レポート課題はループリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入し、提出するワークシートやミニツペーパーのことです。受講態度は授業への取組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。						
テキスト	教科書は指定しません。必要な教材は授業時に配付します。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要項 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、参考図書などは授業中に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	生涯発達心理学の概念や各発達段階における発達課題について理解する。 胎児期の特徴を理解する：母体から受ける影響 外界を認知する能力 [準備・課題] 胎児期の特徴について調べる。(2~4h)						
2	新生児の特徴を理解する：新生児の能力 原始反射 臨界期 微笑行動 模倣行動 乳児期の特徴を理解する①：視空間認知能力 乳児を対象とした実験 [準備・課題] 新生児の持つ能力について調べる。(2~4h)						
3	乳児期の特徴を理解する②：社会的参照行動 他者の認知 愛着の形成 [準備・課題] 小レポート：課題について800文字程度の小レポートを作成する。(8~10h)						
4	グループ学習：小レポートを用いてグループ学習を行い、各自の調べた内容を発表する。 [準備・課題] 他者のレポートから新たに学んだ内容をまとめる(4~8h)						
5	幼児期の特徴を理解する①：言語の獲得 自己の認識 他者理解 [準備・課題] 幼児の言語発達と絵本の関係についてまとめる(2~4h)						
6	幼児期の特徴を理解する②：思考の発達 心の理論 社会性の発達 [準備・課題] 中間試験に向けて1~6週の授業の復習をする(8~10h)						
7	1週目~6週目までの内容の確認の中間試験(30分間) 児童期の特徴を理解する①：学校生活の持つ意味 仲間関係の形成 自尊心と劣等感 [準備・課題] 中間試験を振り返り、学修成果の自己評価を行う(2~4h)						
8	児童期の特徴を理解する②：道徳性の発達 論理的思考 [準備・課題] 児童期に起こるトラブルを発達の視点で振り返る(2~4h)						
9	青年期の特徴を理解する①：友人関係の発達過程 青年期の発達課題と自我同一性 [準備・課題] 今、直面している青年期の課題について考える(2~4h)						
10	授業時間外課題(今直面している青年期の課題)を用いてワークを行う。 青年期の特徴を理解する②：性役割の発達 進路の決定 青年期に多い心理的問題とその対処 [準備・課題] 青年期の課題ワークに取り組んで新たに考えたことをまとめる(3h~6h)						
11	成人期の特徴を理解する①：職業への意識 親になること ワークライフバランス [準備・課題] 成人期の発達課題について調べる(2~4h)						
12	成人期の特徴を理解する②：中年期の危機 ライフキャリアレインボー [準備・課題] 加齢による変化をまとめる(2~4h)						
13	授業時間外課題(加齢による変化)を用いてワークを行う。 老年期の特徴を理解する①：加齢変化 役割変化と受容 [準備・課題] 身近な成人・老年期のモデルをライフキャリアレインボーに照らし合わせてみる(4~6h)						
14	老年期の特徴を理解する②：5つの性格特性 死についての発達 [準備・課題] 最終試験(7~15週の内容)に向けた復習(6~8h)						
15	まとめ：生涯発達心理学の視点から人の一生をあらためて概観する。 [準備・課題] 最終試験(7~15週の内容)に向けた復習(6~8h)						
時間外での学修	課題：毎回課せられる授業時間外課題や小レポートにしっかり取り組んでください。次回授業で用いることもあります。 日常生活：あなたも周りの人も、これまでに様々な側面での発達を経て今ここに居て、この瞬間にもまだ発達しているのだということを意識し、世の中を新たな視点で捉えなおしてみてください。						

受講学生への
メッセージ

発達心理学は、あなたが今まさに生きている人生の過程についての学問です。当事者として楽しむ視点と学問として学ぶ視点の両方を持って受講すると、より深く学ぶことができます。 オフィスアワーは毎週火曜日の10時～12時、それ以外の時間でも、A306(A号館3階)に気軽に来てください。

【EB】子どもの保健		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	岩瀬 桃子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	看護学科教員（小児看護学） 5年						
授業内容	子どもの保健とは、子どもの健康について考え、守り、さらに増進させるための学問や技術のことです。健康についての考え方や子どもを取り巻く環境は時代とともに大きく変化をし、子どもの健康に大きな影響を与えます。この授業では、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、子どもの健康状態とその把握など、保育における保健的対応に必要な基礎知識を学びます。						
授業方法	課題に関する発表・グループワーク（20分）、講義（60分）、まとめ・感想（10分）						
到達目標	知識・理解	子どもの発育・発達と保健を理解し、保育に関わる人として必要な知識を修得することができる。			◎		
	思考・判断・表現	子どもの発育・発達と母子保健活動の関連性を考え、子どもを取り巻く環境の現状と課題について自己の考えを表現することができる。			△		
	技能	保育者としての基盤となる子どもの保健に関する課題の現状の説明ができる。			△		
	関心・意欲・態度	子どもの発育・発達や母子保健について興味や関心を持ち、積極的に学習に取り組むことができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表（グループ発表含む）		10	10	10	10	40
	合計(点)		50	10	10	30	100
評価の特記事項	受講態度は、講義中の姿勢、講義のアンケートから総合的に判断します。遅刻・欠席、提出物の期限遅延は減点とします。						
テキスト	『新基本保育シリーズ11 子ども保健』松田博雄・金森三枝 中央法規(2,000円) ISBN:978-4-8058-5791-5						
参考書・教材	『新時代の保育双書 こどもの保健 I 第2版』服部右子・大森正英 編 みらい(2,200) ISBN:978-4-86015-406-6						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス（子どもの保健とは、授業の進め方、評価方法などの説明） 第1講：生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的 〔準備・課題〕 p2～11までの学習内容を予習する。						
2	第2講：健康の概念と健康指標 〔準備・課題〕 p14～24までの学習内容を予習する。						
3	第2講：健康の概念と健康指標 こどもの貧困の現状と課題について グループワーク、グループ発表 〔準備・課題〕 こどもの貧困について調べておく。新聞記事やニュース、書籍などから現代の子どもの貧困についての現状と課題を考える。						
4	第3講：現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 〔準備・課題〕 p26～33までの学習内容を予習する。						
5	第3講：現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策 〔準備・課題〕 可能な限り、自分の住んでいる市町村の広報をみて、母子保健対策としてどのような事業があるのかを調べる。						
6	第4講：地域における保健活動と子ども虐待防止 〔準備・課題〕 p40～49までの学習内容を予習する。						
7	4講：地域における保健活動と子ども虐待防止 こどもの虐待の現状と課題について グループワーク、グループ発表 〔準備・課題〕 子どもの虐待について調べる。新聞記事やニュースなどから現代の子どもの虐待の現状と課題について考える。						
8	第5講：身体発育および運動機能の発達と保健 〔準備・課題〕 出生時の身長体重やその後の発育について家の人から可能な限り、聞いてくる。						
9	第5講：身体発育および運動機能の発達と保健 〔準備・課題〕 p52～61までの学習内容を予習・復習する。						
10	第6講：生理機能の発達と保健 〔準備・課題〕 人体の構造、解剖に関して、臓器の名称と機能を学習する。						
11	第6講：生理機能の発達と保健 〔準備・課題〕 p66～75までの学習内容を予習・復習する。						
12	第7講：健康状態の観察および心身の不調などの早期発見 〔準備・課題〕 p78～87までの学習内容を予習・復習する。						
13	第8講：発育・発達と把握と健康診断 〔準備・課題〕 p90～99までの学習内容を予習・復習する。						
14	第9講：保護者との情報共有 〔準備・課題〕 p102～109までの学習内容を予習・復習する。						
15	まとめ 〔準備・課題〕 今まで学んだことを振り返っておく。要点を理解できるようにしておく。						
時間外での学修	〔準備・課題〕 に示した該当箇所を予習して受講してください。						
受講学生へのメッセージ	子どもの発育・発達とそれを取り巻く環境や行政について学び、子どもの保健における現代の課題について興味・関心を持ちましょう。また、子どもの保健について学ぶ中で、自分の成長発達を振り返り、子どもの発育に必要なものは何かを考えましょう。そして自分が保育者になるときに学びを生かせるように積極的に学修に臨みましょう。オフィスマナーは講義の前後です。						

【ES】保育内容「人間関係」の指導法		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	川村 弘子						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	幼稚園教諭 38年						
授業内容	領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構築し、実践する方法を身につける。						
授業方法	講義を中心に、小グループでの討議や発表などの演習形式も取り入れて、子ども理解を深める。様々な事例を通して子どもの発達や実態を理解した上で、具体的な指導案作成、模擬保育・ロールプレイ、振り返り・評価などを行いながら指導法を身につけられるようにする。						
到達目標	知識・理解	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な経験や指導上の留意点を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	様々な事例から子どもの実態を知り、それらを分析・判断して、実践に生かそうとすることができる。			◎		
	技能	子どもの心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。			△		
	関心・意欲・態度	近年の子どもを取り巻く環境の変化などに関心をもち、子どもの望ましい成長に新たな方法や手立てを考え、実践しようとする事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	受講態度		-	20	-	20	40
	課題・演習内容		20	10	10	-	40
	最終レポート		20	-	-	-	20
	合計(点)		40	30	10	20	100
評価の特記事項	授業ごとに振り返りを行い、疑問に思うことや確認したいことは積極的に質問したり、自分で調べたりすることができる。課題は期日までにまとめて次の学修に生かすことができる。受講態度は、学修への取り組み状況、グループワークや発表等も含めて評価します。3分の1以上欠席した学生は単位不認定です。						
テキスト	授業中に適宜資料を配付する。						
参考書・教材	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、徳安敦・坂上節子編著『保育内容「人間関係」』青踏社、汐見稔幸著『さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか』小学館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における「人間関係」の全体像をつかむ ーこれからの社会を生き抜く人を育てるために [準備・課題]幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読する (2h~4h)						
2	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方 ー個々への丁寧なかかわりと集団保育の展開 [準備・課題]自身の幼児期の人とかかわりについて、心に残るエピソードをまとめる (2h~4h)						
3	自立心を育む援助 ー子どもの育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成を考える [準備・課題]学修した内容を復習する (2h~4h)						
4	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助のあり方 ーいざこざと保育者の援助 [準備・課題]学修した内容を復習する (2h~4h)						
5	自他の気持ちの違いへ気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方 ー折り合いがつかない事例を考える [準備・課題]事例について考えをまとめておく (2h~4h)						
6	きまりをめぐる様々な子どもの葛藤と援助 ー家庭生活・園生活・社会生活のきまりと子どもに経験させたい内容を考える [準備・課題]家庭、園、社会生活のきまりについて情報を収集する (2h~4h)						
7	ルールのある遊びと援助 ー葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくる [準備・課題]ルールのある遊びの指導案を作成する (2h~4h)						
8	個と集団の育ちを考える ー子ども同士のかかわり合いを生かす間接的援助のあり方 (模擬保育) [準備・課題]指導案をもとに模擬保育の準備をする (2h~4h)						
9	協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育展開を考える ー見通しや振り返りの工夫を意識して [準備・課題]模擬保育の振り返り・評価を考える (2h~4h)						
10	子どもにとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える ー協同的な活動の1ヶ月の展開を考える [準備・課題]行事を踏まえた保育の指導案を作成する (2h~4h)						
11	幼小の交流活動を考える ー相互主体的で互恵的な活動の工夫と展開 [準備・課題]幼小の交流活動について情報を収集する (2h~4h)						
12	小学校以降の生活や学習で生かされる力 ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続期を考える [準備・課題]「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」について理解を深めておく (2h~4h)						
13	地域の中の幼稚園・保育所 ー様々な人とかかわりにある特徴を捉えて、乳幼児期に経験させたい地域の人とかかわりを考える [準備・課題]乳幼児と地域の人との交流について情報を収集する (2h~4h)						
14	多様な人、多様な子どもたちとかかわりの中で豊かに生きる子どもへ ー子どもの経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と保育者の援助を考える [準備・課題]多様な人とかかわりについての事例を考える (2h~4h)						
15	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ [準備・課題]人間関係についての様々な問題をまとめる (2h~4h)						

時間外での学修	学んだ内容について各自、様々な事例を収集し、より子ども理解を深めていくことが大切です。
受講学生へのメッセージ	「人間関係」に関わる活動は広範囲にわたります。新聞やテレビの報道、特集番組、社会事象など子どもに関する内容に目を向け、多くの関心を持って授業に臨んで欲しいと思います。オフィスアワーは講義後に教室で行います。気軽に声を掛けてください。

【ES】保育内容「言葉」の指導法		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	小学校教諭6年						
授業内容	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につめます。						
授業方法	講義と演習						
到達目標	知識・理解	幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容を理解している			◎		
	思考・判断・表現	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している			◎		
	技能	領域「言葉」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる			○		
	関心・意欲・態度	具体的な保育を想定した指導案の作成や、模擬保育の振り返りを通して保育を改善する視点を身につけることができる			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	期末試験		40	-	-	-	40
	レポート		-	30	-	-	30
	演習への姿勢		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	30	20	10	100	
評価の特記事項	レポートは、テーマに沿って授業の中で作成します。学んだことをまとめることができ、さらに自分の体験や感想が加わることが望ましい。演習への姿勢は、ことば遊びや絵本づくりなどの内容に興味関心を持って積極的に取り組むことができるとよい。3分の1以上欠席の場合単位を認めません。						
テキスト	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域言葉』無藤 隆 監修/宮里暁美編者代表 株式会社萌文書林(2,160円) ISBN:978-4-89347-259-5						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』フレーベル館 『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他授業で紹介いたします。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業内容のオリエンテーション 保育における「言葉」とは？－幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらいと内容 [準備・課題] 今日の内容を振り返って、テキストを読む(1h)						
2	子どもの言葉の発達過程(1)－言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
3	子どもの言葉の発達過程(2)－書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
4	感情体験とことば(1)－感情体験と快・不快の感情 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
5	感情体験とことば(2)－自分の思いや気持ちを主張し、気持ちを整える [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
6	感情体験とことば(3)－仲間の意見を調整しながら話し合う [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
7	言葉を豊かにする環境構成と援助(1)－ことばにならない表現を受け止める [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
8	言葉を豊かにする環境構成と援助(2)－生活体験を共有する。イメージ、感覚を共有する。 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
9	言葉を豊かにする環境構成と援助(3)－事例からレポートを作成し、グループワークをする [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。次回のテキストを読む(1h)						
10	子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財－絵本・紙芝居・シアターなどの実際と保育の中での活かし方 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。児童文化財を調べる。(1h)						
11	子どもの言葉を育む保育の実際－保育実践もしくは模擬保育に向けての教材研究 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。教材を準備する。(1h)						
12	子どもの言葉を育む構想－領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。(1h)						
13	子どもの言葉を育む保育の実践－グループに分かれて模擬保育の実施 [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。(1h)						
14	子どもの言葉を育む保育の評価と改善－模擬保育の振り返り [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。(1h)						
15	まとめ：幼児教育の現代的課題と領域「言葉」－幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に考える [準備・課題] 今日の内容を振り返りノートを確認する。全体のまとめをし試験の準備をする(1h)						
時間外での学修	予習としてテキストを読んで来てください。事例を中心にして学んだことを復習するように。						
受講学生へのメッセージ	前期「幼児と言葉」で行った言葉遊び、絵本や紙芝居などの内容に引き続き関心を持って、幼児の言葉の世界を楽しめる授業にしたいと思っています。 オフィスアワー：H204研究室月曜16:20～17:00						

【EB】乳児保育 I		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択必修	講義	30時間	
教員	今村 民子					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員						
授業内容	人の一生の中で著しい成長発達を遂げる3歳未満児の体と心の発達について、月齢ごとの特徴を学んで保育者としてどのように接すればよいかを理解します。また、3歳未満児の保育内容と方法を理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。近年注目されている家庭にいる3歳未満児に求められている保育（子育て支援）についても学んでいきます。					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児で留意することについて理解する			◎	
	思考・判断・表現	保護者とともに子育てしていく姿勢を持って、子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができる			◎	
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる			○	
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	期末筆記試験	30	-	-	-	30
	レポート	-	30	-	-	30
	演習の姿勢	-	-	20	-	20
	受講の態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	30	30	20	20	100
評価の特記事項	レポートは、毎時間の内容を振り返り自分の考えや感想をまとめること。演習への姿勢は、模擬保育に興味関心を深く持ち技術を習得しようと努力する姿を評価する。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『やさしい乳児保育』守随 香他 著 青鞥社 第10版作成中					
参考書・教材	河原佐公・古橋紗人子『シードブック乳児保育科学的観察力と優しい心』建帛社 田中真介『発達がわかれば 子供が見える』ぎょうせい 『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション : 進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る [準備・課題]今日の資料の整理をする。授業概要について理解を深める(1h)					
2	乳幼児保育について1 : 乳児保育の概念、乳児保育の意義について学ぶ [準備・課題]今日の資料の整理をする。乳児保育の概念と意義について理解を深め、身近なニュースに関心を持つ(1h)					
3	乳幼児保育について2 : 乳児保育がどのように普及したか、少子化の現状や対策・制度について知る。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。キーワードの1つについてまとめる(1h)					
4	家庭における養育の現状 : 子どもの発達を規定する要因やその特徴、母親のメンタルヘルスについて理解を深める。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。子育てする母親に関する記事に関心を持つ(1h)					
5	子育てをする親の状況 : 家庭で子育てをする親の実情や育児参加する父について考える。キーワードの振り返りをする [準備・課題]今日の資料の整理をする。父親の子育てに参加について自分の考えを持つ(1h)					
6	乳児と保育園の一日 : 乳児が保育園で1日過ごす内容について。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。乳児の保育園での生活スケジュールを確認する(1h)					
7	おおむね6か月未満の保育 : 0～3か月の発達の様子と関わり方について。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。0～3か月の乳児の姿を各自の方法でまとめる。(1h)					
8	6か月未満の保育 : 4～6か月の発達の様子と関わり方について。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。4～6か月の乳児の姿を各自の方法でまとめる。(1h)					
9	満1歳未満児の保育1 出生から6か月未満のころ : 発達の様子と特徴。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。出生から6か月未満の乳児の姿を各自の方法でまとめる。(1h)					
10	満1歳未満児の保育2 おおむね6か月から1歳未満のころ : 関わり方の配慮、生活や遊びの援助。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。6か月から1歳未満の乳児の姿を各自の方法でまとめる。(1h)					
11	1歳児の保育1 : 発育・発達の特徴について。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。1歳児の姿について各自の方法でまとめる。(1h)					
12	1歳児の保育2 : 生活や遊びの援助について [準備・課題]今日の資料の整理をする。1歳児の生活や遊びの様子について各自の方法でまとめる。(1h)					
13	2歳児の保育1 : 発育・発達の特徴について。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。2歳児の姿について各自の方法でまとめる。(1h)					
14	2歳児の保育2 : 生活や遊びの援助について。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料の整理をする。2歳児の生活や遊びの様子について各自の方法でまとめる。(1h)					
15	乳児の生活保育所における養護とは : 乳児保育における養護の重要性について考える [準備・課題]今日の資料の整理をする。養護の重要性についてまとめる。(1h)					

時間外での学修	保育者になる者という立場に立って、自分自身の成長の様子を振り返ってみたり、自分を育てていただいた方々に、おなかにいた時のことや生まれた時のこと、小さい頃どのように育てられたかななどを聞いてきてみましょう。「母子手帳」は必ず使いますので自分の手元に用意をしましょう。そうした機会を利用しておうちの人に養育の様子を聞かせてもらいましょう。
受講学生へのメッセージ	講義では知識を身につけ、演習では乳児にどのように接すればいいのか体験を通して学んでいきます。発達を知って保育を見通す力がつくようにしましょう。 オフィスアワー：H204研究室月曜16:20～17:00

【ES】乳児保育Ⅱ		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員							
授業内容	人の一生の中で著しい成長発達を遂げる3歳未満児の体と心の発達について、月齢ごとの特徴を学んで保育者としてどのように接すればよいかを理解します。3歳未満児の保育内容と方法について理解して、保育に必要な知識や技術を身につけられるようにします。前期に学んだことを基礎にしてさらに実践に役立つ演習をおこないます。また子育て支援についても地域の現状を学んでいきます。						
授業方法	講義と演習						
到達目標	知識・理解	子どもの年齢による発達特性や成長のようす、育児に留意することについて理解する			◎		
	思考・判断・表現	保護者とともに子育てしていく姿勢を持って、適切な保育や相談支援ができる			◎		
	技能	子どもの成長発達に応じた生活の課題や遊びについて、保育技術を活用した指導や支援ができる			○		
	関心・意欲・態度	保育者として必要な専門的知識を活かしたコミュニケーション能力を身につける			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	期末筆記試験		30	-	-	-	30
	レポート		-	30	-	-	30
	演習への姿勢		-	-	20	-	20
	受講の態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	30	20	20	100
評価の特記事項	レポートは、毎回の内容を振り返り、自分の考えや感想をまとめること。演習への姿勢は、保育技術の習得に興味関心をもって意欲的に努力すること。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『やさしい乳児保育』守随 香 他著、青鞥社 第10版製作中						
参考書・教材	『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 河原佐公・古橋紗人子『シードブック 乳児保育 科学的観察力と優しい心』建帛社 乳児保育研究会『乳児の保育新時代』ひとなる書房						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	後期授業内容のオリエンテーション、乳児保育の体験を振り返る ボランティア実習で出会った乳児保育の感想を伝えあう [準備・課題]今日の資料を整理する。ボランティア実習の感想交流をして感じたことをまとめる。(1h)						
2	乳児保育の環境：乳児の視点でとらえる環境の重要性を知り、基本的な環境や保育指針に示された環境について知る [準備・課題]今日の資料を整理する。乳児保育の環境の重要性についてまとめる。(1h)						
3	乳児保育における保健活動：よくみられる疾患の症状を知り、保育者として留意すべき点について学ぶ。キーワードの振り返り [準備・課題]今日の資料を整理する。疾患の症状、留意点について表を作成する。(1h)						
4	乳児の集団保育と安全：キーワードの振り返り確認。予防、健診、予防接種等について理解を深める。乳児に多い症状の観察と看護、注意事項を知る。 [準備・課題]今日の資料を整理する。乳児に多い症状を表にまとめる。(1h)						
5	保育の記録と計画(1)記録について：キーワードの振り返り確認。保育記録の意義やとり方について学ぶ。[準備・課題]今日の資料を整理する。記録の大切さについて考えをまとめる。(1h)						
6	保育の記録と計画(2)計画について：キーワードの振り返り確認。保育計画について具体的な例をみながら知識をもつ。 [準備・課題]今日の資料を整理する。保育計画の具体例を資料から探す。(1h)						
7	乳児のあそびと環境 あそびのあり方：あそびの重要性を知ってかかわり方を考える [準備・課題]今日の資料を整理する。あそびについての考えを持ちレポートする。(1h)						
8	乳児の発達を考えたあそび：年齢別に遊びの特徴と内容を知って、遊びのレパートリーを増やしていく。0歳児むけの簡単おもちゃをつくる。準備物の確認をする。 [準備・課題]今日の資料を整理する。おもちゃづくりに必要なものの準備をする。(1h)						
9	乳児の発達に即したおもちゃを手作りしよう：参考資料をもとにして、未満児向けのおもちゃを自分たちでつくる計画を立てる(図書館などを利用する) [準備・課題]今日の資料を整理する。あそびの必要性を考えた計画書の見直し。(1h)						
10	未満児の発達に即した手作りおもちゃの作成：作成に必要な廃材を準備して作りきり、発表できるようにする [準備・課題]今日の資料を整理する。手作りおもちゃ作成の準備をする。(1h)						
11	作成した手作りおもちゃを見合う：作ったおもちゃを各自が発表して評価しあう [準備・課題]今日の資料を整理する。作成した手作りおもちゃの発表原稿の見直し。(1h)						
12	あそびと文化1 絵本やわらべうたというあそび文化や伝承あそびについて学ぶ。 [準備・課題]今日の資料を整理する。絵本やわらべうたを自分のものにする。(1h)						
13	あそびと文化2 未満児向けの手作り絵本を考えて作ってみる [準備・課題]今日の資料を整理する。絵本の題材を考えてくる。(1h)						
14	子育て支援事業について：親が子育てを楽しみ、希望がもてる支援について。 [準備・課題]今日の資料を整理する。身近にある子育て支援事業を探す。(1h)						
15	保育者の配慮と心構え：保育現場で子どもや親と接する心構えや職員間の配慮について学ぶ [準備・課題]今日の資料を整理する。全体内容の振り返りをする。(1h)						

時間外での学修	日頃から赤ちゃんや1, 2歳の子ども、親子に関心を持ってどのように生活したり遊んだりしているかなどを観察してみましょう。また、あなたの住んでいる地域ではどのような子育て支援をしているのか情報誌やホームページなどを見て関心を高めることも必要です。
受講学生へのメッセージ	講義で知識を身に付け、演習では乳児にどのように接すればいいのか体験を通して学んでいきます。発達を知って保育できる力を身につけましょう。 オフィスアワー：H204研究室毎週月曜16:20～17:00

【ES】子どもの健康と安全		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	清水 美恵						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	看護師5年以上						
授業内容	保育における保健的観点を踏まえ、事故防止や安全管理について理解する。子どもの体調不良時等に対して、保健的観点を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応を理解する。						
授業方法	主にグループワークを中心に授業を行います。						
到達目標	知識・理解	子どもの身体の発育や生理機能について説明できる。 子どもの健康状態を把握する方法を説明できる。 子どもの主な疾患について理解し、その予防および適切な方法について説明できる。			◎		
	思考・判断・表現	子どもの健康と安全について考えることができる。			◎		
	技能	グループワークを通して、子どもの保育にかかわる保健活動を修得する。			△		
	関心・意欲・態度	子どもの保育に関わる保健活動を理解し、保育活動を通して保育者としての役割・機能について認識し、社会貢献できるような態度を養う。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		30	30	-	30	90
	グループワークへの参加		-	-	10	-	10
	合計(点)		30	30	10	30	100
評価の特記事項	レポート、グループへの参加を統合して評価する。 レポートは、自分の言葉で、簡潔にまとめていることを評価の基準とする。 提出物の期限遅延は減点対象とする。						
テキスト	『子どもの保健 健康と安全』中央法規出版会社(2,160円) ISBN:978-4-8058-5796-0 C3036						
参考書・教材	必要時、授業で提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、概要を説明 子どもの健康と保育の環境 [課題]子どもの健康について復習する(1h)						
2	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 [課題]子どもの保健についてを復習する(1h)						
3	衛生管理 [課題]衛生管理について復習する(1h)						
4	事故防止および安全対策 [課題]子どもに多い事故について復習する(1h)						
5	災害への備えと危機管理 [課題]危機管理について復習する(1h)						
6	体調不良や傷害が発生した場合の対応 [課題]症状に対する対応について復習する(1h)						
7	救急処置および救急蘇生法 [課題]救急処置について復習する(1h)						
8	感染症の集団発生と予防、対応 [課題]感染症について復習する(1h)						
9	保育における保健的対応の基本的な考え方 [課題]保健的対応について復習する(1h)						
10	3歳未満児への適切な対応 [課題]3歳未満児への対応について復習する(1h)						
11	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 [課題]子どもへの個別的な配慮について復習する(1h)						
12	障害のある子どもへの適切な対応 [課題]障害のある子どもへの対応について復習する(1h)						
13	職員間の連携・協働と組織的取り組み [課題]職員間の連携・協働について復習する(1h)						
14	保育における保健計画および評価 [課題]保健計画について復習する(1h)						
15	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 [課題]連携について復習する(1h)						
時間外での学修	授業の内容は必ず復習し、理解を深めてください。						
受講学生へのメッセージ	子どもの健康・安全の確保は、保育施設での子どもの生活の基本です。子どもの保育に関わる保健活動を考察し、実践につながる学修をしてください。 オフィスアワーは、木曜日16:30~17:30です。						

【EB】障がい児保育 I		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	上杉 晴美						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	「幼稚園教諭23年」「ことばの教室14年」						
授業内容	障がい児保育は「保育の原点である」という観点から (1) 障がいを持つ子どもの保育の意義と必要性、 (2) 障がいを持つ子どもの心身の発達、 (3) それぞれの障がいの基礎的な知識と保育での配慮 について学びます。						
授業方法	講義を中心として障がいに対する認識を深め、ワークシートなどを活用し学生たちが主体的に考えたことを発表する活動などを含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識について理解する。			◎		
	思考・判断・表現	障がい特性や支援についてまとめたり、発表したりする事ができる。			◎		
	技能	障がいを持つ子どもの援助について考えることができる。			○		
	関心・意欲・態度	積極的に資料を調べたり、考えをまとめたりする事ができる。			○		
	備考	◎・○・△は、学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	-	15	-	45
	レポート・自己評価		-	30	-	5	35
	受講態度		-	5	-	15	20
	合計(点)		30	35	15	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取り組み状況、レポートや提出物の状況などから総合的に評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『『新・障害のある子どもの保育(第3版)』』伊藤健次編 みらい(2,300円)ISBN:978-4-86015-385-4 C3337						
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	講義のオリエンテーション(この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学習評価等について)障がい児保育を支える理念(1)一①「障がい」の捉え方について学ぶ「障がい」について考える。 [準備と課題] あなたが知っている障がいを持っている人々について、まとめてみましょう。(1-2h)						
2	障がい児保育を支える理念(1)一② 障がい児保育の歴史について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
3	障がい児保育を支える理念(2) 障がい者差別解消法とその考え方や取り組みについて学ぶ発達障 [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
4	障がい児等の理解と保育(1) 肢体不自由児の理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
5	障がい児等の理解と保育(2) 知的障がいの子どもの理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
6	障がい児等の理解と保育(3) 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の子どもの理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
7	障がい児等の理解と保育(4) 発達障がい児の理解と援助① 注意欠如多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)等の子どもの理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
8	障がい児等の理解と保育(4) 発達障がい児の理解と援助② 自閉症スペクトラム(ASD)等の子どもの理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
9	障がい児等の理解と保育(5) 重症心身障がい児、医療的ケア児の子どもの理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
10	障がい児等の理解と保育(6) その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
11	障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際(1) 指導計画及び個別の支援計画の作成について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
12	障害がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際(2)(3) 「個々の発達を促す生活や遊びの環境」「子ども同士の関わりと育ち合い」について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						
13	障害がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際(4)(5) 「障害児保育における子どもの健康と安全」「職員間の協力関係」について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	家庭及び自治体・関係機関との連携 「保護者・家族支援」「小学校との連携」「市町の発達支援システム」について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)
15	障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 「保健・福祉」「福祉・教育」における現状と課題について学ぶ [準備と課題] テキストの指定された部分を事前に読んでおきましょう。わからない用語については調べておきましょう。(1-2h)
時間外での学修	事前にテキストを読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。 実際の子どもの関わりをイメージしてみましょう。
受講学生へのメッセージ	子ども達は遊ぶ中で、関わりが深まり互いに成長していきます。ひとり一人の子どもの育ちに目を向けながら、子ども達がのびのびと充実した生活を送ることができる保育をめざしましょう。 オフィスアワーは、講義後教室にて行います。

【EB】保育入門演習		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	内藤 敦子・名和 孝浩						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭・40年、名和：保育所保育士・9年						
授業内容	保育所・幼稚園の集団生活の実際を知り、生活では欠かせない「手遊び」「読み聞かせ」等の活用方法を体験を通して学びます。また、日常の生活の中で、絵本の読み聞かせや手遊び自然な流れで演じる技術もマスターし、子どもの心をつかむことのできる保育者としての感性や資質の向上を図ります。						
授業方法	この授業は、1「手遊び」2「読み聞かせ」3「現場体験」の3つを体験します。「手遊び」は、様々な手遊びを楽しみ保育者と子ども役を交替しながら全員の前で演じる体験を積み重ねます。「読み聞かせ」は年齢や発達段階に合った絵本の選び方や読み方を学習し、グループごとにお話を組み立て発表します。「現場体験」は保育現場における子どもの生活を見学し、子どもの実態や遊びの様子を理解します。						
到達目標	知識・理解	幼児の実態を理解し、幼児になったつもりで手遊び・読み聞かせ等を仲間と共に楽しむことができる。			◎		
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。			○		
	技能	季節や年齢に応じた手遊び・読み聞かせ等を子ども達に楽しく伝える保育技術を身につけることができる。			○		
	関心・意欲・態度	グループ発表や表現活動を通して、コミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	演習・見学態度		-	-	-	30	30
	達成度		30	-	-	-	30
	発表・見学内容		-	-	20	-	20
	レポート		-	20	-	-	20
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項	この科目は1手遊び、2読み聞かせ、3現場体験を履修した上で合算し、単位数1単位の評価とします。3分の1以上欠席した学生には単位をあたえません。						
テキスト							
参考書・教材	必要に応じてプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						

実施回	内容 授業内容・目標
	<p>第1週 オリエンテーション</p> <p>1: 手遊び ・手遊びの意義と効果について考える。 ・自己紹介と名前呼び遊び [準備・課題]手遊びの意義について記録にまとめる。(1h)</p> <p>2: 読み聞かせ ・子どもにとって絵本とは何かを考える。 ・子どもの頃に読んでもらった経験の中から読み聞かせのもつ意味を考える。 ・話し方や表情、演じ方のポイントを修得する。 [準備・課題]読み聞かせの中で育てたいもの別に分類しそれぞれ代表的な絵本を2冊ずつ選ぶ 好きな絵本を練習する。(2h)</p> <p>3: 現場体験 ・授業ガイダンス、現場見学の留意点・マナーについて確認 [準備・課題]現場見学の視点や特に知りたいことなどをまとめておく。(2h)</p> <p>[手遊び]</p> <p>第1回 0～2歳児の手遊び ・1対1の触れ合い遊びや古くから伝わる手遊びの技術を習得し、自分なりの演じ方を身につける。 [準備・課題]次回グループで発表できるように、今日学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)</p> <p>第2回 集会時の手遊び・歌遊び(グループ発表) ・大勢の前で行う時の技術を習得する。 [準備・課題]次回一人で発表できるように、今日学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(1h)</p> <p>第3回 3～5歳児の手遊び ・手遊びのポイントをつかみ楽しく演じる。 ・基本の手遊びを年齢に応じて発展させる。(個人発表) [準備・課題]学習の成果を保育者になったつもりで個人発表できるように、今までに学んだ手遊びの内1つを練習しておく。(2h)</p> <p>[読み聞かせ]</p> <p>第1回 好きな本をグループで発表する。 0, 1, 2歳児への読み聞かせと発展遊び ・1対1のふれあいを大切にしながら、自分のよさを生かした話し方や接し方を身につける。 [準備・課題]0～2歳児向けの絵本を2冊選び、読み聞かせの練習をする。(1h)</p> <p>第2回 選んだ本をグループで発表する。 3, 4, 5歳児への読み聞かせと発展遊び ・大勢の前での話し方や伝えたいこと、育てたいこと等のポイントを修得する。 [準備・課題]3～5歳児向けの絵本を選び、年齢毎に1冊ずつ選び、発展遊びも含め、練習する。 大型絵本と紙芝居を準備する(2h)</p> <p>第3回 選んだ本をグループで発表、発展遊びについて話し合う。 大型絵本と紙芝居の読み方、演じ方 ・読み聞かせのポイントを理解して、伝えたいことを明確にもちながら、楽しく読み聞かせをする。(年齢に即した内容、語り方や演じ方、表情や発展遊びなど) [準備・課題]3～5歳児に対して、読み聞かせの発表ができるように効果的な構成や演じ方を練習する。児童コーナー等に出かけ、子どもと一緒に読み聞かせを聞き、楽しさを共感し、実践に生かす。(2h)</p> <p>[現場体験]</p> <p>*大垣市立北幼保園</p> <p>第1回 大垣市立北幼保園の見学、観察 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>第2回 大垣市立北幼保園の見学、観察 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>*わかたけ保育園</p> <p>第1回 わかたけ保育園の見学、観察 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>第2回 わかたけ保育園の見学、観察 各自が体験した保育現場について気付いた点について話し合い発表する。 [準備・課題]観察記録の整理(2h)</p> <p>※「手遊び」「読み聞かせ」「現場体験」をそれぞれ交替で受講し、保育入門演習とする</p>
時間外での学修	見学で得た子どもの実態について振り返り、子どもの姿に応じた手遊びや読み聞かせなどが行えるようにしてください。毎回学習した手遊び、読み聞かせ等は、次回までに自分のものにし、人前で演じることができるよう、各自復習しておいてください。わからない時は、聞きにきてください。
受講学生へのメッセージ	積極的に参加し、子どもの実態の把握と、豊かな表情、自分なりの表現力を身につけてください。オフィスアワーは内藤(H205)・名和(H211)で毎週木曜日の昼休みです。

【ES】保育技術演習		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	内藤 敦子・立崎 博則						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	内藤 : 幼稚園教諭 40年						
授業内容	保育所・幼稚園等の集団生活では欠かせない「すばなし」「簡単シアター」「集団遊び」等の活用方法を学びます。それと同時に、遊びを通して社会性を高めたり、保育入門で学んだノウハウを生かし、さまざまな活動を自然な流れで演じるお話の技術もマスターし、保育者としての感性や資質の向上を図ります。						
授業方法	この授業は、1「すばなし」(担当:内藤)2「簡単シアター」(担当:水谷)3「集団遊び」(担当:内藤)の3つを、5コマずつ体験します。 「すばなし」は、年齢や発達段階に添った語りの基礎を学びます。「簡単パペット」は、制作と同時にその演じ方について学びます。「集団遊び」は、幼児になりきって集団で遊ぶ楽しさを味わい、遊びの進め方を学びます。						
到達目標	知識・理解	幼児になったつもりで、「すばなし」「簡単シアター」「集団遊び」等を、仲間と共に楽しむことができる。			◎		
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。			○		
	技能	年齢や発達に応じた指導・援助等の保育技術を身につけることができる。			○		
	関心・意欲・態度	遊びや表現活動を通してコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	演習態度		-	-	-	30	30
	達成度		30	-	-	-	30
	発表内容		-	-	20	-	20
	レポート		-	20	-	-	20
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項	この科目は1「すばなし」2「簡単シアター」3「集団遊び」を履修した上で合算し、単位数1単位の評価とします。 3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	必要に応じて資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						

実施回	内容 授業内容・目標
	<p>【すばなし】</p> <p>第1回 オリエンテーション ・すばなしの意義、心をつかむすばなし実践のポイントを習得する。 ・住んでいるところのよい点を皆に話をする。 [準備・課題] 今までの生活の中で「すばなし」の種類を分類してまとめる。 繰り返しのすばなしを練習をする(1h)</p> <p>第2回 繰り返しのすばなしを発表する。 0～2歳児へのすばなし ・1対1の触れ合いを大切にしながら、自分を活かした話し方や接し方を身につける。 [準備・課題] 0～2歳児に対しての「すばなし」を実践例としてまとめる。 短いすばなしに練習をする(1h)</p> <p>第3回 短いすばなしを発表する。 3～5歳児へのすばなし ・1対1、大勢の前でのそれぞれの話し方や伝えたいこと・育てたいこと等のポイントを習得する。 [準備・課題] 3～5歳児に対しての「すばなし」を種類別の実践例としてまとめる。 語りたのおはなしを決める(1h)</p> <p>第4回 3～5歳児へのすばなし ・語りたのおはなしを覚える。 ・すばなしのポイントを活かしながら楽しく話す。(グループ演習) [準備・課題] 3～5歳児に対しての「すばなし」を発表できるように文章化し、効果的な話し方を練習する。(2h)</p> <p>第5回 「すばなし」の個人発表と反省 ・すばなしの基礎を理解して、伝えたいことを明確にしながら楽しく話す。 (年齢に即した内容、具体的な語り方、表情など) [課題] 総合的なまとめの復讐。(1h)</p> <p>【簡単シアター】</p> <p>第1回 オリエンテーション ・簡単シアターの種類と活用方法の説明。・スポンジパペット制作 [準備・課題] 簡単シアターの活用についてまとめ、スポンジパペットを完成させる(1h)</p> <p>第2回 ・てぶくろ人形1制作(準備・課題をもとに活用方法を考えたてぶくろ人形を制作する) [準備・課題](1h)てぶくろ人形1を完成させる</p> <p>第3回 てぶくろ人形2制作・グループ演習(準備・課題をもとに活用方法を考えたてぶくろ人形を制作する) [準備・課題](1h)てぶくろ人形2を完成させる</p> <p>第4回 ・ペーパーサート制作・グループ演習(準備・課題をもとに活用方法を考えたペーパーサートを制作する) [準備・課題] ペーパーサートを完成させる・発表の練習をする。(2h)</p> <p>第5回 ・簡単シアターの活用方法を考え、工夫して発表する。(準備・課題で行った練習の成果を発表する) [課題] 自分の作品を実習に生かせるように演じ方を記録に残す。(1h)</p> <p>【集団遊び】</p> <p>第1回 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、心構え、進め方等) 「椅子を使った遊び」 ・言葉や指示に従う遊びを楽しむ。 [準備・課題] 今日学んだ集団遊びの進め方及び「椅子を使った遊び」の内容をノートに記録する。 じゃんけんを使った遊びを調べる(1h)</p> <p>第2回 「じゃんけんを使った遊び」 ・調べたじゃんけんを使った遊びをグループで楽しむ。 ・じゃんけんを使ったいろいろな遊びを楽しみチーム戦に発展させる。 (じゃんけん汽車・ドンじゃんけん等) [準備・課題] 今日学んだ「じゃんけんを使った遊び」の遊び方を図示して記録する。 わらべ歌遊びを調べる(1h)</p> <p>第3回 「わらべ歌遊び」 ・調べたわらべ歌遊びをグループで楽しむ。 ・昔ながらの言葉のやりとりのおもしろさを楽しむ。 (はないちもんめ・たけのこ1本 おくれ等) [準備・課題] 今日学んだ「わらべ歌」を歌詞及び遊び方を図示して記録する。 鬼遊びを調べる(1h)</p> <p>第4回 「鬼遊び」(1) ・調べた鬼遊びをグループで楽しむ。 ・自分たちで作ったルールを守って遊ぶ楽しさを知る。 (いる鬼・島鬼・ひょうたん鬼・引越し鬼等) ・友だちと鬼ごっこの作戦をたてたりして、チーム戦を楽しむ。 (氷鬼・どろけい等) [準備・課題] 今日学んだ「鬼遊び」の遊び方を図示して記録する。 鬼遊びを調べる(1h)</p> <p>第5回 「鬼遊び」(2)まとめ ・調べた鬼遊びをグループで楽しむ。 ・お話から発展した鬼ごっこのおもしろさを楽しむ。 (おおかみさん今何時?・ねことねずみ・子とろ等) [課題] 今日学んだ「鬼遊び」の遊び方を図示して記録し、5回分の記録をレポートとしてまとめる。(1h)</p> <p>※「すばなし」「簡単シアター」「集団遊び」の第1回から第5回をそれぞれ交替で受講し、保育技術演習とする。</p>
時間外での学修	「すばなし」は、児童コーナーで行われている「おはなし」の場等を見学し、実践に向けての学びの場を求めましょう。 「簡単シアター」は、実習やボランティア活動等で繰り返し活用して技術を磨きましょう。 「集団遊び」は、実習や実務研修に利用できるように、遊び方、留意点等を各自ノートに整理しておきましょう。
受講学生へのメッセージ	「すばなし」では話をするを楽しみ、子どもの心に響くお話ができるように努力しましょう。 「簡単パペット」では素早く作成し演じ方を工夫しましょう。 「集団遊び」は運動できる服装と靴で参加してください。 オフィスアワー 内藤 (H205) 木曜日12:10～12:40 立崎 (H201) 木曜日12:10～12:40

【EB】音楽 I		幼児教育学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	光井 恵子・小川 寿実子・春日 有貴江・竹内 美樹・日比 裕美子					
資格・制限等	幼免必修					
実務家教員						
授業内容	教育者、保育者になるために必要な音楽を基礎から学び、幅広い音楽性や表現する力を身に付けていきます。クラス授業では教育や保育に必要な音楽理論を学び、ピアノ実技では各自の進度に応じた個人レッスンを行います。					
授業方法	二つのグループに分け、クラス授業とピアノ実技を毎時交替しながら行います。グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。					
到達目標	知識・理解	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し、説明することができる。			○	
	思考・判断・表現	音楽の楽しさを表現することができる。			○	
	技能	保育におけるピアノ演奏技術の基本を身につける。			○	
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる			◎	
観点別評価	評価の方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	確認テスト・課題レポート	20	15	-	-	35
	実技試験	-	10	10	-	20
	達成度	-	-	15	-	15
	受講態度	-	-	-	30	30
	合計(点)	20	25	25	30	100
評価の特記事項	クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。 ピアノ実技：実技試験、達成度、受講態度で評価をします。 受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『音楽通論』教育芸術社ISBN:9784877884215 『標準バイエル・教則本』全音楽譜出版社ISBN:9784111010103 『バイエル教則本』終了者は、各自のレベルに合わせた楽譜（各自所有の楽譜等）を持参してください。					
参考書・教材	『ブルクミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバム1』等 必要な資料は授業で配布します。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	クラス授業：楽譜の仕組みについて (1) 譜表、音名 [準備・課題] 譜表、音名を覚え、ピアノ練習に活用する ピアノ実技：クラス分けとミーティング 各自のレベルに合わせた個人レッスン（選曲と今後の方針） [準備・課題] 次の授業でのレッスン曲を練習する (1~2h)					
2	クラス授業：楽譜の仕組みについて (2) 音符、休符 [準備・課題] 音符や休符の種類や名前を覚え、ピアノ練習に活用する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
3	クラス授業：楽譜の仕組みについて (3) 拍子、小節 グループワークをして修得した内容を確認しあう [準備・課題] 学習した内容を楽譜から読み取り、ピアノ練習に活用する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
4	クラス授業：音楽の仕組みについて (1) [音程①] 単音程 2・3度音程 [準備・課題] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
5	クラス授業：音楽の仕組みについて (2) [音程②] 単音程 6・7度音程 [準備・課題] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
6	クラス授業：音楽の仕組みについて (3) [音程③] 単音程 1・4・5・8度音程 グループワークをして修得した内容を確認しあう [準備・課題] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
7	クラス授業：音楽の仕組みについて (4) [音程④] 派生音を含む音程と複音程 [準備・課題] 学習した内容を復習し、音程は鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					
8	クラス授業：確認テスト、音楽の仕組みについて (5) [音階①] 長音階（ハ長調・ト長調・ニ長調・イ長調） [準備・課題] 学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて (6) [音階②] 長音階（へ長調・変ロ長調・変ホ長調） [準備・課題] 学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
10	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて (7) [音階③] 短音階（イ短調の自然的短音階・和声的短音階・旋律的短音階） [準備・課題] 学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
11	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて (8) [音階④] 短音階（二短調・ホ短調・ト短調・ハ短調） [準備・課題] 学習した内容を復習し、各調の音階を鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
12	<p>クラス授業：音楽の仕組みについて (9) 音程と音階の復習 さまざまな音楽の標語・記号 [準備・課題] 学習した内容を復習し、楽譜から標語や記号を読み取る ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み、さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
13	<p>クラス授業：課題レポートの内容説明と作成に向けて [準備・課題] 学習した内容を復習し、レポートを作成する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（試験に向けて課題曲の練習） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (1～2h)</p>
14	<p>クラス授業：確認テスト [準備・課題] 学習した内容を復習し、レポートを完成させる ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（試験に向けて課題曲の練習） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (1～2h)</p>
15	<p>クラス授業：前期に修得した内容をグループで発表 [準備・課題] 総合的に復習し、前期全体のまとめをする ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（試験に向けて課題曲の仕上げ） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (2～3h)</p>
時間外での学修	<p>教育者、保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身につけていきますので、ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習・復習に取り組んでください。質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>音楽をしっかりと学び、その技術・技能を身につけることは、保育者として指導力に大きく関わります。体調を常に整えて、遅刻、欠席しないように心がけましょう。爪はしっかりと切っておいてください。オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日の16：20から17：30です。</p>

【EB】音楽Ⅱ		幼児教育学科		1年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子・小川 寿実子・春日 有貴江・竹内 美樹・日比 裕美子						
資格・制限等	幼児必修						
実務家教員							
授業内容	クラス授業では前期の基礎知識をもとにして、音楽の実用方法を学び、ピアノ実技では、各自の進度に応じてさらに演奏技術を高め、表現力を身につけていきます。						
授業方法	前期同様、二つのグループに分け、クラス授業とピアノ実技を毎時交替しながら行います。グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。						
到達目標	知識・理解	教育者、保育者になるために必要な音楽基礎知識を理解し、説明することができる。			○		
	思考・判断・表現	幅広い音楽ジャンルの曲を理解し、音楽の楽しさを表現しそれを人に伝えることができる。			○		
	技能	保育におけるピアノ演奏技術を基礎から応用まで身につける。			○		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	確認テスト・課題レポート		20	15	-	-	35
	実技試験		-	10	10	-	20
	達成度		-	-	15	-	15
	受講態度		-	-	-	30	30
合計(点)		20	25	25	30	100	
評価の特記事項	<p>クラス授業：確認テスト、課題レポート、受講態度で評価をします。</p> <p>ピアノ実技：実技試験、達成度、受講態度で評価をします。</p> <p>受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況、提出物などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。</p>						
テキスト	『音楽通論』教育芸術社ISBN:9784877884215 『バイエル教則本、他』全音楽譜出版社ISBN:9784111010103 『バイエル教則本』終了者は、各自のレベルに合わせた楽譜（各自所有の楽譜等）を持参してください。						
参考書・教材	『ブルクミュラー25の練習曲』『ソナチネアルバム1』等 必要な資料は授業で配布します。 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	<p>クラス授業：前期の復習（音程、音階等） [準備・課題] 学習した内容を復習し、音程、音階は鍵盤上で確認する ピアノ実技：休暇中の課題曲の発表とアドヴァイス [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						
2	<p>クラス授業：和音の仕組みについて（1）長三和音と短三和音 [準備・課題] 学習した内容を復習し、和音の違いを鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						
3	<p>クラス授業：和音の仕組みについて（2）増三和音と減三和音 [準備・課題] 学習した内容を復習し、和音の違いを鍵盤上で確認する（1～2h） ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（3h）</p>						
4	<p>クラス授業：和音の仕組みについて（3）属七の和音と短七の和音 [準備・課題] 学習した内容を復習し、和音の違いを鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						
5	<p>クラス授業：和音の仕組みについて（4）減七の和音 [準備・課題] 学習した内容を復習し、和音の違いを鍵盤上で確認する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						
6	<p>クラス授業：確認テスト、和音の仕組みについて（5）音階上の三和音とコードネーム [準備・課題] 学習した内容を復習し、コードネームを鍵盤上で確実に覚える ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						
7	<p>クラス授業：和音の仕組みについて（6）音階上の四和音とコードネーム 和音の仕組みについて修得した内容をグループワークで確認しあう [準備・課題] 学習した内容を復習し、コードネームを鍵盤上で確実に覚える ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						
8	<p>クラス授業：コード進行法について（1）主要三和音を用いて [準備・課題] 学習した内容を復習し、コードネームを鍵盤上で確認しながら練習する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン（正確な譜読み・さまざまな表現法等） [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）</p>						

内容	
実施回	授業内容・目標
9	<p>クラス授業：コード進行法について (2) 主要三和音と属七の和音を用いて [準備・課題] 学習した内容を復習し、コードネームを鍵盤上で確認しながら練習する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (正確な譜読み・さまざまな表現法等) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
10	<p>クラス授業：コード進行法について (3) 主要三和音・属七の和音と副三和音を用いて [準備・課題] 学習した内容を復習し、コードネームを鍵盤上で確認しながら練習する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (正確な譜読み・さまざまな表現法等) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
11	<p>クラス授業：確認テスト、キーボードハーモニーについて (1) 簡単な子どもの歌の伴奏づけ (C・Gを用いて) をグループワークで行う [準備・課題] 学習した内容を復習し、ピアノ伴奏の練習を行う ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (正確な譜読み・さまざまな表現法等) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
12	<p>クラス授業：キーボードハーモニーについて (2) 簡単な子どもの歌の伴奏づけ (C・F・Gを用いて) をグループワークで行う [準備・課題] 学習した内容を復習し、ピアノ伴奏の練習を行う ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (正確な譜読み・さまざまな表現法等) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習 (1～2h)</p>
13	<p>クラス授業：キーボードハーモニーについて (3) 簡単な子どもの歌の伴奏づけ (C・F・G・G7を用いて) をグループワークで行う [準備・課題] 学習した内容を復習し、ピアノ伴奏の練習を行う ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (後期試験に向けて課題曲の選曲と練習) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (1～2h)</p>
14	<p>クラス授業：課題レポートの内容説明と作成に向けて [準備・課題] 学習した内容を復習し、レポートを作成する ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (後期試験に向けて課題曲の練習) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (1～2h)</p>
15	<p>クラス授業：課題レポートの作成と後期のまとめ [準備・課題] 学習した内容を復習し、レポートを完成させる ピアノ実技：各自のレベルに合わせた個人レッスン (後期試験に向けて課題曲の練習と仕上げ) [準備・課題] レッスン内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習 (2～3h)</p>
時間外での学修	<p>教育者、保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、ピアノの練習は毎日行い、積極的に予習、復習に取り組んでください。 質問等があれば、研究室 (A307 : A号館3F) へきてください。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>音楽をしっかりと学び、その技能、技術を身に付けることは、保育者として指導力に大きく関わります。体調を常に整えて、遅刻、欠席をしないように心がけましょう。爪はしっかりと切っておいてください。 オフィスアワーは研究室 (A307 : A号館3F) で毎週火曜日16 : 20から17 : 30です。</p>

【EB】 図画工作 I		幼児教育学科		1年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	立崎 博則					
資格・制限等	幼免必修					
実務家教員						
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を学ぶ。					
授業方法	制作活動の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。					
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現の位置付けについて説明できる。			◎	
	思考・判断・表現	グループでの制作を通し、他者の考えや表現を受け止め共感し、協力し表現する重要性を説明できる。			◎	
	技能	作ることを積極的に楽しみ、基礎的な知識・技能を用い表現ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	創作作品	-	-	30	-	30
	レポート	30	-	-	-	30
	ポートフォリオ	-	30	-	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	造形活動のねらって何だろう ・「作る」を通して豊かな感性と創造性を考える [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録し自分の「好き」を増やしプリント課題に取り組む。(1~2h)					
2	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作概要の説明 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)					
3	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作1 下絵を描こう [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)					
4	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作2 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)					
5	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・誰かのために作るを体験する 制作3 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)					
6	造形活動を体験する ・基本的な道具の使い方 ・コミュニケーションと制作 制作4 作品①の提出とレポート課題①について [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、他者とコミュニケーションをとることについて課題に取り組む。(1~2h)					
7	造形活動を通した表現を体験する ・自分を表現する ・グループを表現する [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の表現の参考にすることについて課題に取り組む。(1~2h)					
8	造形活動を通した表現を体験する ・グループを表現する ・色に注目する [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1~2h)					
9	造形活動を通した表現を体験する ・グループを表現する ・色に注目する 作品②の提出とレポート課題②について [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、グループ制作の参考にすることについて課題に取り組む。(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで大きな作品を制作 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1~2h)
11	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで大きな作品を制作 制作1 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1~2h)
12	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで大きな作品を制作 制作2 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1~2h)
13	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで大きな作品を制作 制作3 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用する。(1~2h)
14	協力して「作る」を体験する ・身近な素材を使いグループで大きな作品を制作 制作4 作品③の提出について [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、身近な素材での制作に応用した作品展示について考える。(1~2h)
15	自分の制作を振り返る ・自分の制作ふりかえり レポート課題③について [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、自分の制作について課題を行う。(1~2h)
時間外での学修	日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、金曜日11:00-12:00です。

【EB】 図画工作Ⅱ		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	立崎 博則					
資格・制限等	幼免必修					
実務家教員						
授業内容	造形あそびや造形表現について、制作活動を通して基礎的な知識と技能を使い、グループワークや見せる(発表する・展示する) ことについて学ぶ。					
授業方法	制作活動や発表の体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。					
到達目標	知識・理解	多様な創作活動を体験し、幼児の造形あそびや表現活動について自分の考えを言える。			◎	
	思考・判断・表現	発表や鑑賞を通して、共感や感動の表現に対する重要性を説明できる。			◎	
	技能	作ることを積極的に楽しみ、様々な道具や素材を使い表現ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	創作作品	-	-	20	-	20
	発表	-	-	10	-	10
	レポート	30	-	-	-	30
	ポートフォリオ	-	30	-	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	30	30	30	10	100	
評価の特記事項						
テキスト						
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	身近な素材での表現を探究する ・人物クロッキーをしよう [準備・課題]ポートフォリオを使い、道具・環境・アイデアを整理する。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるようにする事。(1~2h)					
2	身近な素材での表現を探究する ・絵の具を使った技法で表現する [準備・課題]身近な素材(絵の具)について、その他の遊びを考えポートフォリオにまとめる。(1~2h)					
3	身近な素材での表現を探究する ・カラーポリ袋を使って表現する [準備・課題]身近な素材(カラーポリ袋)について、その他の遊びを考えポートフォリオにまとめる。(1~2h)					
4	子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 ・参考作品を見る 流れを考える [準備・課題]実習時の自己紹介についてアイデアをまとめる。(1~2h)					
5	子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 制作1 [準備・課題]実習時の自己紹介の作品について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
6	子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 制作2 [準備・課題]実習時の自己紹介の作品について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
7	第7回：子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 制作3 [準備・課題]実習時の自己紹介の作品について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
8	第8回：子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 制作4 [準備・課題]実習時の自己紹介の作品について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
9	第9回：子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 発表1 [準備・課題]実習時の自己紹介の発表について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
10	子どもに伝える表現を探究する ・自己紹介のための造形作品 発表2 [準備・課題]実習時の自己紹介の発表について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
11	「協力して作る」を探究する ・季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する 制作概要の説明 [準備・課題]実習時の自己紹介の発表について伝わる工夫をまとめる。(1~2h)					
12	「協力して作る」を探究する 季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する 下絵の制作 [準備・課題]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
13	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する [準備・課題]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1~2h)
14	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する [準備・課題]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1~2h)
15	「協力して作る」を探求する 季節や行事に向けての制作 グループワークを工夫する [準備・課題]グループでの表現や制作についてプリント課題に取り組む。(1~2h)
時間外での学修	日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現に取り入れ制作をできるようまとめてきてください。 定期的におりがみ課題を実施します。練習しいつでも披露できるよう準備してください。
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスパワーは、金曜日11:00-12:00です。

【EB】 幼児と健康		幼児教育学科		1年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	中野 由香里					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員						
授業内容	幼児期に必要な健康な心と体を育て、安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識や技能を身につけます。特に幼児の発達運動等において、幼児期の特徴や意義について学び、運動を実施することで健康に繋がる実践的な取り組みを中心とした演習となります。					
授業方法	主に実技を中心とした演習となります。テーマによって、個人・グループ活動を行いながら、授業展開していきます。					
到達目標	知識・理解	乳幼児期の健康（発達・生活習慣等）について理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、創造的な身体活動をすることができる。			○	
	技能	感じたことや考えたことを自分なりに表現し、発表することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。			○	
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	15	-	-	-	15
	自己評価	-	-	15	-	15
	発表	-	20	20	-	40
	受講態度	15	-	-	15	30
	合計(点)	30	20	35	15	100
評価の特記事項	レポートと自己評価は、出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、授業内において設定した発表の内容を総合的に評価します。受講態度は、取り組み姿勢を主に評価します。欠席については、活動内容が不足しているとして減点の対象となります。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『なし』					
参考書・教材	幼稚園教育要領解説、幼児体育、保育内容（健康）、資料は必要に応じて配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	乳幼児期の健康課題（乳幼児期の健康について学び、健康体操を実施する） 【準備・課題】健康体操について調べ、乳幼児期の健康についてまとめる。（1h～2h）					
2	乳幼児の発達の特徴（乳幼児期の身体的・生理的機能の発達について学び、発達段階に沿った運動を実施する） 【準備・課題】発達段階に沿った運動の内容をまとめる。（1h～2h）					
3	乳幼児の安全管理（安全教育と危険について実践的に学ぶ） 【準備・課題】安全管理についてまとめる。（1h～2h）					
4	乳幼児期の応急処置・病気の予防（怪我の特徴と基本的な応急処置を学び、病気の予防になる運動を実施する） 【準備・課題】乳幼児期の病気について調べ、応急処置の方法を身につける。（1h～2h）					
5	乳幼児期の運動発達（多様な動きについて学び、乳幼児期に必要な運動を実施する） 【準備・課題】運動発達について調べ、乳幼児期に必要な運動についてまとめる。（1h～2h）					
6	日常生活における運動（社会の変化と生活の中の動きの経験等について学び、継続的にできる運動を探る） 【準備・課題】継続的にできる運動についてまとめる。（1h～2h）					
7	あそびから運動へ 模倣あそび1（まねっこ、リズムに合わせて遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
8	あそびから運動へ 模倣あそび2（身近なものになりきって遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
9	あそびから運動へ からだあそび1（からだを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
10	あそびから運動へ からだあそび2（からだを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
11	あそびから運動へ ボールあそび（ボールを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
12	あそびから運動へ ロープあそび（ロープを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
13	あそびから運動へ 新聞あそび（新聞を使って遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
14	あそびから運動へ フープあそび（フープを使って遊ぶことができる運動を実施する） 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
15	あそびから運動へ ゴムあそび（ゴムを使って遊ぶことができる運動を実施する）、課題の確認 【準備・課題】配布された資料に実施内容をまとめる。（1h～2h）					
時間外での学修	普段の生活の中で、健康に関する情報を収集してください。また、子ども（特に乳幼児）の特徴的な身体活動をまとめておいてください。発表に向けて準備や練習を十分に行ってください。					
受講学生へのメッセージ	自分自身が楽しく精一杯に活動ができるように、毎時間の活動に集中してください。オフィスアワーは研究室（H203:H号館2F）で毎週金曜日12:15～12:45です。					

【EB】国語		幼児教育学科		1年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	今井 美都子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	国語の基本である「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」この4つの領域の国語力を向上させる能力を養う。保育現場の当事者の声を確かな国語力で理解し、的確な発信ができるように保育専門家のエッセイ、コラム等を読んで子どもたちの真の姿を知る。実践論文、保育関連記事、国語科教材、文学作品（絵本を含む）等も教材にして、読解力、思考力、言語力を育てる。特に保育者としての資質を高めることに繋がる作品を意識して幅広く読んで、思慮深く、豊かな表現力を培うことを目指して保育実践力をつける。						
授業方法	講義を中心にしつつ、毎回テーマに沿って様々な作品を読む（音読・黙読）。様々な作品に触れ、深く読み込むことで「自分を見つめる」作業をし、保育者としての資質を互いに高め合う。毎回、個々のコメントを書くことで文章構成力、表現力を養うことを重要視し、同時にアドバイスする。						
到達目標	知識・理解	保育者としての専門的知識を習得するために必要な読解力を身に付ける保育の本質を理解することができることによって、子どもに応じた援助や適切な環境構成、子育て支援を行うための知識を習得することができる。			◎		
	思考・判断・表現	豊かな感性、表現力を養い、保育者としての自覚を持って、子どもの健やかな成長のために時代のニーズに柔軟に対応した保育実践を行うことができる思考力、判断力、そして実際に表現する力をつけることによって地域や保護者に適切な発信ができる。			○		
	技能	保育実践に必要な情報を的確に読み解く力を身に付けて、それを保育技術に生かして、子どもとの関係をより良いものとする。さらに職員と協働すると共に、地域や保護者と連携できるコミュニケーション能力を身に付けることができる。			○		
	関心・意欲・態度	言語による表現力と理解力を身に付けることによって自己を確立し、社会人としての幅広いコミュニケーション能力を身に付けることによって、保育と社会に関する諸現象に関心を寄せ、前向きに対応する意欲と態度を持って、地域や保護者と連携し様々な課題に対応していこうとすることができる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	10	-	60
	発表・レポート		5	5	5	5	20
	自己評価		5	5	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	20	15	15	100	
評価の特記事項	試験は定期試験で行う。発表・レポートは内容評価と同時に取り組み姿勢も重視。受講態度を含めて総合的に評価。3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えない。						
テキスト							
参考書・教材	毎回、レジュメ・資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	講義のガイダンス。「話すこと」を実践する。(全員) 〔準備・課題〕自分自身を見つめる。語る。文章化する。項目を立てる。(3h)						
2	目的を持って図書館に行く。テーマを決めて本を探し、選んだ本について説明文を作成し、発表する。 〔準備・課題〕説明文を完成させる。他の人の選書から学んだことをまとめる。(3~4h)						
3	4月の子どもの姿をエッセイ、絵本、コラム等を読んで学び、各自のコメントを書き記す。 〔準備・課題〕授業内で紹介された作品、関連図書について調べる。(3~5h)						
4	読書リテラシーを育てる①子ども時代の読書体験を語り、文章化する。作家の読書体験を知る。 〔準備・課題〕授業内で紹介された作家について調べる。(4h)						
5	読書リテラシーを育てる②知識を広げる読みについて。「ことば遊び」を楽しむ。 〔準備・課題〕様々な「ことば遊び」の実例を調べて紹介する。(4h)						
6	表現方法の違いを考察する。①絵本と文学の違いについて。 〔準備・課題〕実例を探し、課題を提示する。(3h)						
7	表現方法の違いを考察する。②視点をかえて作品を読む。 〔準備・課題〕図書館で調べる。(3h)						
8	翻訳について考察する。①『大きな木』を読む。訳文の違いを読みとる。 〔準備・課題〕作者について調べてまとめる。(4h)						
9	翻訳について考察する。②ディック・ブルーナを読み解く。 〔準備・課題〕ディック・ブルーナ作品を子どもの発達に合わせて分類する。(4h)						
10	国語教材を読み解く。①「がまくんとかえるくん」シリーズを読み深める。 〔準備・課題〕アーノルド・ローベルについて調べる。(3h)						
11	国語教材を読み解く。②『スイミー』を読む。絵本を比較して違いを読み解く。 〔準備・課題〕レオ・レオニの全作品を調べる。作品の意味を考える。(4h)						
12	メディアリテラシーについて。①メディアを読み解くための基礎知識 〔準備・課題〕様々なメディアを比較し、子どもとの関係を調べる。(2h)						
13	メディアリテラシーについて。②様々な新聞記事、コラム等を比較して読む。 〔準備・課題〕3社以上の新聞記事を比較してまとめる。(3h)						
14	敬語の基礎を知る。手紙の書き方。 〔準備・課題〕相手を想定して手紙を書く。(2h)						
15	まとめ。レポート、小論文の書き方と基本ルール。 〔準備・課題〕総合的なまとめと復習。(6h)						
時間外での学修	本校、各自地域の図書館に積極的に行って沢山の「本」を検索して読んで下さい。社会状況に関心を持ち、問題意識を持って日々を過ごして下さい。						

受講学生への
メッセージ

オフィスアワー：質問は講義終了後、教室で行います。

【EB】 幼児と言葉		幼児教育学科		1年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員							
授業内容	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身につけます。具体的には「言葉」の意義や機能についての理解を深めながら、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につけます。						
授業方法	演習						
到達目標	知識・理解	言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解したり、幼児の発達における児童文化財の意義について理解する			○		
	思考・判断・表現	言葉の楽しさや美しさ、言葉の感覚を豊かにする実践、児童文化財について、基礎的な知識を身につける			◎		
	技能	言葉遊びの種類を豊富にしたり、児童文化財（絵本、紙しばい）の具体的な作品に多く出合って知識を豊かにすることができる			◎		
	関心・意欲・態度	幼児の言葉に関心を持つ豊かな感性と教養を養い、常に研鑽に努めることができる			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	受講参加態度		-	30	-	-	30
	発表の姿		-	-	30	-	30
	演習への姿勢		-	-	-	20	20
	課題レポート		20	-	-	-	20
合計(点)		20	30	30	20	100	
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材	「幼稚園教育要領」フレーベル館「保育所保育指針」フレーベル館「幼保連携型認定こども園教育保育要領」フレーベル館「ことばと表現力を育む児童文化」川勝泰介他著 萌文書林						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業内容のオリエンテーション 人間にとっての言葉の意義と機能 [準備・課題] 今日の内容を振り返って、準備するものを確認し次回に備える。(1h)						
2	子どもは言葉をどのように獲得するのか？DVDを視聴し内容について自分の意見を持つ。 [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。キーワードを書き出しまとめる。(1h)						
3	「言葉に対する感覚」とは何か？(1) 一言葉の楽しさを感じよう [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。今日の内容を自分のものにする。(1h)						
4	「言葉に対する感覚」とは何か？(2) 一言葉の楽しさを交流する。＜グループワーク＞ [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。今日の内容を自分のものにする。(1h)						
5	言葉に対する感覚を豊かにする実践とは？一言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方 [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。言葉遊びの種類を探す。(1h)						
6	言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際一子どもと楽しむ「言葉遊び」を考えよう [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。活動内容を記録する。(1h)						
7	言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは何か？一子どもにとっての児童文化財の意義 [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。児童文化財についてまとめる。(1h)						
8	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）の実際(1) 一絵本の種類や歴史、保育への取り入れ方について学ぶ [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。絵本の歴史をまとめる。(1h)						
9	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）の実際(2) 一絵本の種類や保育への取り入れ方についてグループワークをする [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。読みたい絵本を探す。(1h)						
10	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（絵本）を用いた実践一グループごとの絵本の読み聞かせ会をする [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。読み聞かせ会の計画を確認する。(1h)						
11	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（紙芝居）の実際(1) 一紙芝居の種類や歴史、保育への取り入れ方について学ぶ [準備・課題] 紙芝居など必要なものを準備する。紙芝居への理解をまとめる。(1h)						
12	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（紙芝居）の実際(2) 一紙芝居の種類や保育への取り入れ方についてグループワークをする [準備・課題] 紙芝居など必要なものを準備する。紙芝居を探す。(1h)						
13	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財（紙芝居）を用いた実践一選んだ紙芝居をグループごとに発表する [準備・課題] 紙芝居など必要なものを準備する。発表の心構えを確認する。(1h)						
14	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の計画一子どもと一緒に絵本や紙芝居を読む活動を想定したお話し会の計画を立てる [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。活動計画を見直し確認する。(1h)						
15	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた活動の実践一子どもと一緒に絵本や紙芝居を読む活動を想定したお話し会をグループごとに発表する [準備・課題] 絵本など必要なものを準備する。発表後の反省を記録する。(1h)						
時間外での学修	絵本や紙芝居を中心にした児童文化財に関心を持って触れる努力をしましょう。						
受講学生へのメッセージ	絵本や紙芝居は子どもにとって心の栄養になるものです。学生のみなさんも自分の心を豊かにするためにたくさん絵本や紙芝居に触れ、子どもへ向けて発信できる保育者に成長できるような授業にしたいと思っています。オフィスアワー：H204研究室月曜16:20～17:00						

【EA】保育実習 I a		幼児教育学科		1年後期		
		2単位	選択	実習	90時間	
教員	名和 孝浩・内藤 敦子					
資格・制限等	保資必修/GPA並びに既修得科目による制限有り					
実務家教員	内藤：幼保園保育者・7年、名和：保育所保育士・9年					
授業内容	保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。					
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を90時間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。					
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。			○	
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。			○	
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。			○	
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。			◎	
観点別評価	評価方法	評価の観点				合計(点)
	実習日誌の評価	10	10	10	30	30
	実習園の評価	10	10	10	30	60
	提出物				10	10
	合計(点)	20	20	20	40	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。					
テキスト	なし					
参考書・教材	『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 『保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』 フレーバル館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	<p>第1回 実習園での オリエンテーション</p> <p>第2回～第8回 保育所での保育実習 (45時間)</p> <p>(1) 観察を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要を知る。 ・園児と共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努める。 ・保育所における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。 <p>第9回～第15回 保育所で保育実習 (45時間)</p> <p>(2) 補助的な参加・部分実習を中心とした実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導職員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・保育計画・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。 					
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。 					
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みましょう。 オフィスアワーは内藤 (H205) ・名和 (H211) で毎週木曜日の昼休みです。					

【ES】実習指導 I a		幼児教育学科		1年通年		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	名和 孝浩・内藤 敦子・立崎 博則					
資格・制限等	保資必修					
実務家教員	内藤 : 幼稚園教諭・40年、名和 : 保育所保育士・9年					
授業内容	保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習に必要な基本的知識や態度を学び、課題を持って実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう実習に関連する科目での学びも取り入れて知識や技能を習得します。					
授業方法	講義と演習					
到達目標	知識・理解	保育所の一日の流れを理解すると共に、実習施設や保育内容について学ぶ。			○	
	思考・判断・表現	子どもと共に活動しながら観察し、乳幼児理解に努め、その記録を日誌にまとめる。			○	
	技能	保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。			◎	
	関心・意欲・態度	積極的に保育に参加し、保育士の役割について学ぶ。			◎	
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	レポート	10	20	-	-	30
	小テスト	10	-	-	-	10
	実技試験	-	-	30	-	30
	提出物・受講態度	-	-	-	30	30
	合計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
テキスト	『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社(1,512円) ISBN:978-4907270193 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社(1,512円) ISBN:978-4907270155					
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション ・実習とは何か ・保育実習までの準備と学び [準備・課題]保育実習園について調べる。(1h)					
2	実習園を決める ・保育実習の意義について学ぶ ・保育ボランティアに向けての準備 [準備・課題]保育実習園を決め、連絡をとり、内諾を受ける。(1~2h)					
3	保育ボランティアに行こう ・保育ボランティアの心得について学ぶ ・保育ボランティアでの視点について学ぶ ・個人情報の保護に関して学ぶ [準備・課題]保育ボランティアの依頼と事前オリエンテーションに向かう。(2~3h)					
4	保育実習に向けて自身のめあてを決めよう ・保育ボランティアを振り返り、自身の課題に気づき、目標を立て見通しを持つ ・保育所の機能と目的についてまとめる [準備・課題]保育ボランティアの振り返りをまとめる。(1~2h)					
5	保育所保育指針から学ぶ(1) ・認定子ども園との相違について知る ・「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ [準備・課題]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を事前の読んでおく。(1~2h)					
6	保育所保育指針から学ぶ(2) ・「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ [準備・課題]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を事前に読んでおく。(1~2h)					
7	小テスト・保育の実際(1) 部分実習の考え方について学ぶ ・指導案の立て方を学ぶ 指導案を立てて、模擬授業をする [準備・課題]部分実習の指導案を考えておく。(1~2h)					
8	保育の実際(2) ・自己紹介について考え、必要な準備をする [準備・課題]必要な準備物を完成させる。(1~2h)					
9	実習日誌の書き方について学ぶ ・実習日誌の書き方を学ぶ。デイリープログラムを、日誌に書く [準備・課題]デイリープログラムを完成させる。(1h)					
10	実技の確かめ ・保育園をイメージして手遊びをする ・実習日誌の正しい書き方について確認をする [準備・課題]手遊びの内容を考え、練習をしておく。(1~2h)					
11	実習生としての心構え(1) ・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る ・実習生としての実習態度、服装・身だしなみの確認をする。 [準備・課題]事前オリエンテーションを受けるために必要な準備をする。(1~2h)					
12	実習生としての心構え(2) ・実習のめあての確認 ・事務文書(身上書)の作成 [準備・課題]身上書を完成させる。(1~2h)					
13	実習生としての心構え(3) ・事務文書(訪問担当者への地図)の作成や取り扱いについて確認をする ・個人情報の保護について確認をする [準備・課題]実習日誌や必要な書類の整理をしておく。(1~2h)					
14	まとめ ・実習の目的と内容の確認 ・評価について ・事務連絡 [準備・課題]実習初日の持ち物の確認や自己紹介の練習をしておく。(2h)					
15	実習を終えて反省 ・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする ・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の実習に向けて課題を明確に持つ [準備・課題]実習振り返り票の記入をする。(1h)					
時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、その都度指示をしますから、確実に課題を進めていきましょう。					
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。オフィスアワーは内藤(H205)・名和(H211)で毎週木曜日の昼休みです。					

【EF】 ボランティア実践		幼児教育学科		1～3年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	インターンシップ、ボランティア活動の実践						
授業方法	大学での学びを保育現場で検証・深化させるインターンシップやサービスマーケティング、地域・社会のニーズに応えるボランティア活動への参加。						
到達目標	知識・理解	子どもの遊びや生活を支えるための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を身につけることができる。			○		
	思考・判断・表現	時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につける。			◎		
	技能	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につける。			○		
	関心・意欲・態度	社会に貢献する使命感と責任感を持って、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表・レポート		20	-	-	-	20
	自己評価		-	-	20	-	20
	受講態度		-	30	-	-	30
	提出物		-	-	-	30	30
合計(点)		20	30	20	30	100	
評価の特記事項							
テキスト	ありません。						
参考書・教材	学会などの催し、研究会などは案内します。また、日頃から印刷物（新聞、関連誌）を身近な教材にしてください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	<p>※3年間において、下記のいずれかの社会活動に15回（30時間～60時間）相当以上参加し、そのレポートを随時、提出することで単位を認定します。</p> <p><社会活動の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県や市町村等の主催するボランティア活動への参加 2. 各種団体主催のボランティア活動への参加 3. 地域で行われる行事や活動への参加 4. 保育施設、幼稚園等での指導や補助 5. 自主的な清掃活動 6. その他のボランティア活動等 <p>(※随時、討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す)</p> <p><報告書の提出></p> <p>活動後、所定の用紙にて2週間以内にレポートをチューターに提出する。さらに、3年間のインターンシップ・ボランティア活動報告書をポートフォリオに綴り、定期的にチューターに提出することが必須。</p>						
時間外での学修	本科目はすべて授業外の時間設定となります。						
受講学生へのメッセージ	地域には、若い力を求めるたくさんのニーズがあります。大学で学んだ専門的知識や技能を、社会現場で活用し、社会的ニーズに積極的に応える人間へと自らを高めていきましょう。オフィスアワーは各教員の時間帯を参照。質問・相談はチューターに随時行ってください。						

【EF】 ウインドアンサンブル(1年次 前期)		幼児教育学科		1年前期		
		2単位	選択必修	演習	60時間	
教員	服部 篤典・鈴木 孝育・野々垣 行恵					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」					
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。					
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△	
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△	
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階スケールをすべて演奏できる。保育現場において、子供の成長発達に応じた音楽活動について、演奏技術を活用してその指導や支援ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標の結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	-	60	-	60
	受講態度	-	-	-	20	20
	小テスト・提出物	10	10	-	-	20
	合計(点)	10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	ありません					
参考書・教材	楽譜等その都度配布。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート内交流。 [準備・課題] シラバスの熟読・自己の基礎力を確認 (2h~4h)					
2	基礎力向上の為の講座①(個人の基礎力チェック) パート内で確認し合う。 及び基礎力向上のための楽曲①配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲①の研究及び練習、個々に基礎力をチェック (2h~4h)					
3	基礎力向上の為の講座②(ロングトーン) 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲②の研究及び練習、ロングトーンの実践(2h~4h)					
4	基礎力向上の為の講座③(チューニング) 及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲③の研究及び練習、チューニング方法の確認 (2h~4h)					
5	基礎力向上の為の講座④(長音階スケール) 及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲④の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)					
6	基礎力向上の為の講座⑤(長音階スケール) パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑤の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h~4h)					
7	基礎力向上の為の講座⑥(ユニゾン) 及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑥の研究及び練習、ユニゾンの合わせ方を復習 (2h~4h)					
8	基礎力向上の為の講座⑦(3連符と12/8拍子での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑦配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲⑦の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)					
9	基礎力向上の為の講座⑧(16分音符での音階) 及び音楽鑑賞用楽曲⑧配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑧の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)					
10	基礎力向上の為の講座⑨(3度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑨配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲⑨の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)					
11	基礎力向上の為の講座⑩(4度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑩配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑩の研究及び練習、4度の練習 (2h~4h)					
12	基礎力向上の為の講座⑪(5度) 及び音楽鑑賞用楽曲⑪配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲⑪の研究及び練習、5度の練習 (2h~4h)					
13	基礎力向上の為の講座⑫(アルペジオ:長調) 及び音楽鑑賞用楽曲⑫配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑫の研究及び練習、アルペジオ:長調の練習 (2h~4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	基礎力向上の為の講座⑬（3度・4度・5度・6度の練習） 及び音楽鑑賞用楽曲⑬配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑬の研究及び練習、3度・4度・5度・6度の練習（2h～4h）
15	基礎力向上の為の講座⑭（長3和音と属7の和音） 試験指定曲の合奏 [準備・課題]試験指定曲の研究及び練習、長3和音と属7の和音の練習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【EF】 ウインドアンサンブル(1年次 後期)		幼児教育学科		1年後期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	服部 篤典・鈴木 孝育・野々垣 行恵						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールをすべて演奏できる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動について、演奏技術を活用してその指導や支援ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標の結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座①(短音階スケール)及び音楽鑑賞用楽曲①配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、短音階スケールの練習 (2h~4h)						
2	基礎力向上の為の講座②(短音階スケール)パート内で確認しあう。及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、短音階スケールの練習(2h~4h)						
3	基礎力向上の為の講座③(3連符と12/8拍子での音階)及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h~4h)						
4	基礎力向上の為の講座④(16分音符での音階)及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h~4h)						
5	基礎力向上の為の講座⑤(3度)及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、3度の練習 (2h~4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑥(アルペジオ:短調)及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、アルペジオ:短調の練習 (2h~4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑦(短3和音と減7の和音)及び定期演奏会選曲・音だし1 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、短3和音と減7の和音の練習 (2h~4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑧(グルーピング他)及び定期演奏会選曲・音だし2 [準備・課題]定期演奏会プログラムの研究、グルーピング他の復習 (2h~4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑨(重心他)及び定期演奏会に向けての練習1 楽曲1・2 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲1・2の練習、重心他の復習(2h~4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑩(コントラスト他)及び定期演奏会に向けての練習2 楽曲3・4 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲3・4の練習、コントラスト他の復習(2h~4h)						
11	定期演奏会に向けての練習3 楽曲5~7 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲5~7の練習(2h~4h)						
12	定期演奏会に向けての練習4 楽曲8~10 [準備・課題]定期演奏会の研究及び楽曲8~10の練習(2h~4h)						
13	定期演奏会に向けての練習5 全曲 [準備・課題]定期演奏会の研究及び全曲の練習(2h~4h)						
14	定期演奏会に向けての練習6 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	定期演奏会に向けての練習7 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。